
好きしょ！ワールド妄想トリップ

綾野雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

好きしょ！ワールド妄想トリップ

【Nコード】

N1182E

【作者名】

綾野雅

【あらすじ】

『好きなものは好きだからしょうがない』の二次創作作品です。ぎりぎりBLですが、年齢制限のあるような描写はないのでパロディー短編として読んでください。

「プロローグ」始まりはバトンから…

ブログを通してもらったバトンから書いた短編です

バトンのタイトルは「妄想トリップバトン」

いかにもタイトルからして怪しげなのですが、指定された世界で妄想大爆発しちゃってくださいというバトンだったのであります（苦笑）。

難解極まるこのバトン。

みやびはちゃんと現実世界に戻れるんでしょうか…。

漬物石のようなおも〜い不安を抱えながら挑戦してみたいと思います。

「お〜い、誰か。命綱、持ってきてくれ〜!!」

【質問1】前の人の指定した世界は？

”好きなものは好きだからしょうがない！（略してすきしょ）”

まっ、マジっすか（滝汗）

この純情の塊のような、いたいけな少女にあんなアブない世界を指定されるなんて…。
よよよ。

（ああ、もうすでにいつちゃってるよ、この人）

誰がいつちゃってるですか！失礼な、ぷんぷん。

（あんだだ、あんだ。な〜に〜が、いたいけな少女だ。いい年こいたオバさんが）

おっ、おば…って、あんだ一体何者？！

そっ、その夏みかんのような派手な髪は…！けっ、敬介〜〜〜！！！！

（だ〜れが夏みかんだ！ハンサムで超かっくいい立花敬介くんたあ、オレのことだ！

まいったか。わ〜っはっはっは）

参ったかって、あんだ、私が創ったんだけど？

（うつせえ！こんなかっくいい敬介さまを差し置いてカミンが主役だあ？）

いや、主役は勇希だよ。彼はまあ、準主役というか…。

（しかも、続編が出たと思えば主役がこれまた新人ったあどういう
了見た、ええ？）

なんだ、その言葉遣い。あんたは江戸時代の人間か？

（うるせえ！そこになおれ！たたっ切ってやる！）

あ~~~~れ~~~~。お代官さま~~~~。

《あの〜、いい加減くだらないことやめてトリップしちゃってくだ
さいよあ》

お！そういえばすっかりお題を忘れていたわ・・・。
それにしても、こんなかわいいキャラ、うちにいたっけ？

《私、新人キャラのレルムですう〜。普段はアイドルなんですよ》

おお〜。そうだった、そうだった。普段はネコ語じゃないんだった。

《当たり前ですう〜》

でも、かわりにぶりぶり口調なんだね

《アイドルですから〜》

（こいつらオレを無視しやがって……ていつ！）

うわ、人の首根っこ掴んで何を！

（うるさい！早くお題をこなしてこんかー！！）

うわ~~~~~！！人を投げるな~~~~！！！！

敬介め〜！覚えてろ〜！！！！

ひえええええ~~~~！！！！

（注：良い子はマネしないでね）

【質問1】前の人の指定した世界は？（後書き）

次ページから『好きしょ』の世界にトリップします。原作を知っている人は各キャラの台詞をオリジナルの声優さんボイスで（脳内変換して）お楽しみくださいませ

【質問2】目が覚めると、そこは・・・？

あ、いったい。まったく、いたいけな少女を投げるとはなんて野蛮な…

（まだ言ってる）

どんな教育を受けたんだ、あいつは。親の顔が見てみたいってもん
だわ（ お前だ）

ぶつくさ言いながら周りを見回してみると、いつの間にか外にいた。
背の高いコンクリート製の塀のそばには等間隔に桜の木が植わって
いて、時折吹く風にピンクの小さな花びらが辺りに舞っている。
久々の桜に目を奪われつつ塀に沿ってのんびり歩いていくと奥に4
階建ての校舎が見えてきた。

やゝ、これぞ「ザ・日本の高校」って感じだね！懐かし。

みやびが高校に通ってたのはいつだったか…（遠い目）

にしても、今ちょうど登校時間ってとこかしら。制服姿の男子がい
っぱい歩いてるワ。

しかもどの子も女の子みたいにかわいいじゃない。今の子ってみん
なジャニーズ系みたくなよした子ばかりなのかしら。筋肉む
きむきつていうのも暑苦しいけれど、女の私より線が細いってのも
どうなのかって思うわね。

そんなことを思っていると、目の端に周りとはあきらかに違った才

ーラをまとった学生が見えた。180cmはゆうに超えているであろうその男は他の生徒と同じ白い学ランを着てはいるものの、どう見ても二十歳をとくに過ぎた風貌をしている。その短く刈り込んだ銀髪に見覚えがあつたあたしは思わずかけよって声をかけた。

「ちよつと満?!」

あたしの声に巨漢の男は「ぎく!」という音が聞こえそうなほど大げさに体を震わせると、ゆっくりとこちらを振り向いた。

「やっぱり…」

あたしがわざとらしいため息をつけてみせると満は居心地悪そうにうつ向いた。

「何やっての、こんなところで?てか、そのかつこ、何?」

『あ、いや、これは、その…』

「ん?」

『実は…他のやつより先に本編*での出番もなくなって、落ち込んでたんだ…。そしたら敬介が、こっちの作品で使ってもらえるかもしれないって…』

「…」

『やっぱりダメか?』

小さな声でそうたずねる満を見ているとなんだか悪いことをしてい

るような気もするが、だからと言って簡単に出してやる、なんていうわけにもいかない。

「いや、ダメって言うか…これ、もともとファンフィクションだし。それ以前に高校生って設定には無理があるっしょ。あ、ま、先生って手はあるかもしれないけど…、満ってあっち（BL）の興味があるんだったつけ？」

『あっち…とは？』

「あ、普通は知らないか。ちょっと耳かしてみ」

素直に耳を貸す満にあたしが「あること」をささやくと、満の顔がさあゝと青褪めていく。

『すっ、すまん！用事があつたのを思い出した！それじゃ！』

そう言っただかと思うと、満はあっという間に走り去っていった。

はあ、やれやれ。ま、満には悪いけど、ここはあれでよかったのよね。

しかし、それにしても女子生徒の姿が見えないわね…。

ん？ちよつとまでよ。確かここは指定された世界…。ということは、げげっ！男子校…！

どっ、ど、すんのよ？男子校になんて通えないわよ。

てか、年齢的に学生って柄でもないわよ！

こっ、困った…。これからどうすれば…。

【質問2】目が覚めると、そこは・・・？（後書き）

*本編：連載中のオリジナル小説『Guiding Star 2
Lux Spei 希望の光』のこと。この作中で満は最愛の
女性を守るために戦い、不幸にも敵によって操られた彼女自身の手
によって命を落とした。

【質問3】貴方には不思議な力が備わっていました。その“能力”とは？

「せんぱい！！」

悩んでいると、背後からやけに元気な男の子の叫び声がした。

反射的にあたしが振り返ったのと、かえるを踏み潰したような声が聞こえたのはほぼ同時だった。

『ぐげっ！い…市川…！！お前なあ…（怒）』

聞き覚えのある声が大声を張り上げた。

も…もしかこの声は…（はあと）！！！！

声のほうに視線をやると見るからに元気いっぱい少年が、自分より身体の高い少年に馬乗りになっている。いかにも楽しそうに笑っている少年に先輩はまだ地面につぶしたまま、不機嫌そうな声をあげた。

『なんだってお前はそういつつもいつつも俺に蹴りを入れてくるんだよ！』

「えへへ。だって、ぼんやりとしている先輩が悪いんだぞ。オレ何度も声をかけたのに…」

ぼさぼさ頭で怒鳴っている「先輩」を尻目に市川と呼ばれた青年はこれっぽっちも悪びれた様子も見せない。それどころかまるで子犬のように大きな目をうるうるさせたかと思うと、なんとか立ち上がった先輩に抱きついていた。

『ぐわっ、やっ、やめろ！離れろっ！』

「えっいいじゃんか。減るもんじゃなし…」

『減るんだよ！だっ、だいたいお前は永瀬が好きなんだろう？なん
でオレノ抱きつくんだよ？』

「だっって、オレ、空先輩も好きなんだもっん…あれ？」

『んあ？』

しばらく空にじゃれついていた市川がふっとこちらに視線を向けた。

「あれっ。君、だれっ？なんでこんなところにいるのっ？？」

『あれっ？そっういや、初めて見る顔だな。誰だおまえ？』

市川の声に空と呼ばれた青年もこっちに注目した。

「わっ、私はっそのっ。とっ、通りすがりの女子高生です！！（焦）」

「はあ？女子高生にしちゃっ年くってるような…ぐげっ！！」

「きゃっ、どっしたんですかっ？そんな変な声だしてっ」

ぶりぶりに振舞うあたしの右手は空の顔にめりこんでいた。

『じっ…じっ…。藤守より手え早ええんじゃ…』

「あゝもしかして転校生？」

市川が引きつりながら、それでも興味津々に聞いてきた。

「あつ、そうなんですぅ。でもここって男子しか入れないんですか」

（うつゝしまった。レルムのぶりぶり口調がうつってしまった）

『ま、男子校だからな。…つか、お前男じゃん？』

「え????」

あたしは空の言っていることがよくわからなくて、おもわずずっとんきような声をあげた。

『それに、女にしちゃ胸も洗濯板のよう・・・うぎゃっ！』

アップーカットに空の体が吹っ飛んだ。

「そゝらせんぱゝい。どこ行くだゝ？もうすぐ始業のベルがなるぜえ」

今や空の藻屑と化した先輩に向かって市川は暢気なものだった。

まったくこんなか弱い少女を男だなんて…いくら空でも許せな…ん？

一人むくれたところで、あたしは何か違和感があるのに気がついた。なっ…なんか下半身にみよゝな感触が…

「ちよつ、ちよつと市川くん！ト、トイレどこ？」

「んあゝ？校舎入って右側だけどゝ。あ、オレついてってやるよ」

「ついてって…ま、まあいいわ。早く案内してちょうだい」

独り個室に駆け込むと急いでスカートをたくしあげる。

や、やはし…。

あるはずのないナニカにあたしの手が触れて、あたしは呆然と立ち尽くした。

がゝん。

こつ、これは一体…。これもこの世界に入り込んだせいなのか？とにかく、これは異常事態だわ。どうしよう…。

とりあえず衣服を正して個室の中で今のとんでもない状況に悩んでいるあたしの背後に突然何者かの影が現れた。

だっ、誰？

（お前は今まで知らなかったのだろうか、実は好きな性別に変化できるという能力を持っているのだ）

綺麗な金髪をなびかせた男がそう囁いた。

あ、あんたは…ダコス？！なんでこんなところに…。

（それは私の美貌に悩殺された乙女たちからのあつゝい期待に答えるためだ）

なにがあつゝい期待よ。まあ、いいわ。そんなことより、好きな性別に変化できるって…。

（そうだ。その能力さえあれば、この世界ではやりたい放題。もう、うれしくってうっはうは、ってことだ）

なっ…なんておそろしいことを。

（ふっ。その力をどう使うかはお前の自由。楽しませてもらうことを期待するぞ）

ダコスはそっくり残すとあつゝと言う間に便器の裏に消えていった。

【質問3】貴方には不思議な力が備わっていました。その“能力”とは？（後

ダコスが言う『うっはうは』の能力。あなたなら何に使う？18禁
にならない程度でコメント募集します

【質問4】最高責任者と面会する事になりました。まず、どうします？

がつくり肩を落として外に出ると白衣を着た長身の男にぶつかった。

はつとして顔をあげると眼鏡の奥にナイフのような冷たい視線を秘めた男が冷ややかにこちらを見下ろしている。

「げっ…。永瀬…。」

『ん？初めて見る顔だな？なぜ俺の名を知っている』

「あつ、芥〜。こいつ、転入生なんだってさ〜」

隣にいた市川が瞳をきらきら輝かせて白衣の男に寄り添った。

『ほう？転入生？それにしても女のような服を着ているが？』

冷たい永瀬の瞳がきらりと妖しい光を放った。

ひっ…ひえ〜（滝汗）

「いやっ、そのっ、ま〜だ制服が出来てこなくって〜」

焦りながら答えるあたしを永瀬はしばらく無言で見つめていたがやがてにやりと唇のはしを歪ませて笑みをつくった。

『そうか。明らかに不審人物というわけだな…。本来なら相沢に付き合わせるところだが、あいにく今は留守だったか。ふっ。まあ、いい。今度モルモットにでもなってもらってから楽しみにしているこ

とだな』

ぐげっ。

相沢がいなかったのは不幸中の幸いだが、永瀬はその息子。しかも怪しげな薬品を扱わせれば天下一の薬品オタクだ。

そんな奴のモルモットになんかされた日には命がいくつあってもたりやしない。

やむを得まい。ここは…。

くるっと踵を返すとあたしは一目散に逃げ出した。

『ふっ。どこに逃げても同じこと』

背後で永瀬のいやに自信ありげな声が聞こえた気がしたが、そんなことにあたしは構っていられなかった。

【質問5】宿がない！！誰の家に泊まりますか？

校舎を飛び出し、やみくもに走っていると少し離れたところにアパートらしき建物を発見した。

門の前を赤いジャージにほっかむりという、イマドキ有り得ないださださなかつこうをした華奢な人物が、ほつき片手に忙しそうにしているのが見える。

こいつはもしかして…。

『あら？あなたは？』

しばらくしてこちらに気がついたその人はどこか女っぽいハスキーボイスで問いかけた。

や、やはし、七海ちゃんか…。

「今日転入してきたんですぅ」

としなをつくつてみるが、そんなもの、この天然に効くわけがない。

『ええ？転入生？おかしいですね、そんな話は聞いていませんが…』

やはしというか、完璧スルーだ。

マジメにかわされてしまった。うっ、おそろべし…。

「れっ、連絡がうまくいつていないとかで、その…」

『あら、そうなんですか』

暢気に嘘を信じている七海。ふっ。ちろいぜと思つたのも束の間。うーんとひとしきりなにやら考えてから口を開く。

『もしかして、学園寮に入居する予定でしたか？』

そうか…。七海はここに住んでるんだつた。うーむ。どうしよう。たしかここは二人部屋。今部屋に一人なのは祭ぐらいのもので、空き部屋もなかったっぽい。どうするよ？祭と一緒に？

うーん。悪くはないけどちやつかりものの祭と同室なんて、絶対いやゝなことを頼まれそうな予感がする…。空はいつもそれでひどい目にあつてるんだよなあ…。

かと言つて七海ちゃんの部屋に転がり込むのもなんだかなあ。

水都がやってきたりしたらと思うと…ぞぞ（冷汗）

脳裏に映し出された嫌な光景に口が利けないでいるあたしには気付かず、七海はまだ何か一人でぶつぶつ言っていた。

『うーん。それは困りましたね。今はどの部屋もいっぱいなんですよ…。』

少し前なら羽柴くんの部屋が空いていたんですけどねえ。今は藤守くんがいますし…。

仕方ない、寮長の本郷くんの部屋にでも…』

うげ。やっぱし祭と同室か…。まあ、それも仕方ないかと無理矢理納得しようとしたその時、寮の奥から怒鳴り声が聞こえてきた。

「もう！羽柴のバカ！僕はもう祭ちゃんの部屋に移るからね！」

赤い長髪を後ろでくくった華奢な少年が顔を真っ赤にして、なにやらぷりぷり怒りながら目の前を通りかかる。

『あ、藤守くん。どうしたんです？そんな大声を出して？』

七海がのんびりとした口調で声をかけると藤守が驚いたように振り向いた。

どうやら怒りのせいで周りが見えてなかったらしい。

「あつ、七海せんせい」

急におとなしい口調になると藤守ははずかしそうに俯いた。

『どうしたんです？また羽柴くんと喧嘩でもしたんですか？』

なだめるように言う七海に藤守は少しだけ殊勝な顔をしたが、こつちを見た途端、急にその目つきがきつくなった。

「キミ…もしかして？」

問い掛ける口調まできつい。まるで夫の浮気相手でも問い詰めるかのような口調に思わずたじろいでしまう。

『ああ、彼は新しく入った転入生ですよ。ええつと、名前は…』

「あつ、綾野」

藤守の剣幕に気付いていないのだろうか、相変わらず穏やかに話す七海にあたしは反射的に苗字だけ答えた。

「新人生…。やっぱりキミが…」

ギロリと睨まれて肩をすくめた。

藤守がこんな目であたしを見る理由がわからない。第一初対面で人にメンチ切るなんて失礼じゃないか。一言いってやろうと意を決したあたしを藤守はすつと無視すると七海に話し掛けた。

「七海せんせい、俺、祭ちゃんの部屋に移りますから」

『え？本郷くんの部屋にですか？でもどうして…？』

「羽柴が…」

『羽柴くんが？』

「俺よりも手の早いやつにあったって。どこかの野蛮人と同じみたいに言うんです」

そう言つて藤守はきつとあたしのほうを睨みつけた。

手の早い？？ああ、もしかして、さっきのアップーのこと？（汗）
たはは。やっぱ、あれはやりすぎたか…。

にしても、なんでこいつに野蛮人呼ばわりされにやならんのよ。あなたの手が早いのだって実証済みでしょうが！！

その時あたしの脳裏に悪魔の声が浮かんた。

『え？でも、本郷くんの部屋には綾野くんが…』

「先生、あた、いや、ぼ、僕のことは気にしないでいいですよ」

『え、でも…それじゃあ君が困るでしょう？』

「いいえ、僕が羽柴くんと同室になりますから。ねえ、藤守くん？」

そう言ったあたしの顔には意地悪な笑みが張り付いていた。

【質問5】宿がない！！誰の家に泊まりますか？（後書き）

さあ、とうとう藤守を敵にまわしてまであたしがとつた行動は？
ということ、またまた次回につづく！

【質問6】貴方がこの世界で必ずやりたい事は？

とは言ったものの…。

あたしは藤守が昨日まで使っていたベッドの上で何度目かのため息をついた。

空は人なつっこい笑みであたしを新しいルームメイトとして受け入れてくれたけど、彼の心に藤守との喧嘩がひっかかっているのは誰の目にも明らかだ。

日課のトレーニングに遅くまで出ていた空はシャワーをあびると鬼のように深く寝入ってしまったている。

とりあえず、うまく学園にはいることはできたけど、ダコスのやつ、いったいこの状態でどくしろって言うのよ。やりたい放題だった、あたしは見た目、男の子(?)になってるっていうのに…。そりゃま、藤守だって男の子だけださ。…いや、そういう問題じゃなくって。

ん？まてよ。ダコスはあたしが好きな性別になれるって言ってたっけ…。

でもどうやって？とっ、とにかく試してみるか。

あたしはとにかく頭の中であることを念じてみることにした。それから数十分。

おお。戻ってんじゃん。

どういうわけかあたしの身体はもとに戻っていた。

こっ、これは襲うしか…。（マジか？汗）

いやだって、読者のみなさんだって、きつとそれを期待してるし…。

あたしはどきどきする洗濯板のような胸を押さえながら隣のベッド
フ中にいる空に抜き足さしあしで近づいてみる。

寝相の悪い空の毛布はとうの昔にけとばされて、無残にもベッドの
下に落ちていた。

パジャマの代わりに部屋着のズボンとＴシャツを着てはいるが、寝
ている間にシャツがずれたのか、へそはまる見えの状態だ。

あゝあ。まったく、しょうがないなあ。ん？なんだこれ？

空がきつく抱きしめているピンクのものに目が止まった。

暗闇の中で目を凝らしてみると、どうやら空愛用のゾウ型まくら（
たしか、トシゾウとかいう名前）らしい。

こっ、高校生にもなってぬいぐるみかい（汗）

ちょっと脱力しながらも、幸せそうに眠る空の顔を覗き込む。

うつむ。今ならやつちやえるかもしれない。どっ、どうしよう

（早くするのだ）

頭の中でダコスの声がする。

はっ、早くっ たって…。

（読者のみなさんを待たせるんじゃない）

ぐっ…。わっ、わかったわよ。んじゃくいくわよ。そっつと。空が起きないようにそっつとね。そっつと顔を近づけて…。

がばっ！！

うわっ！！！！

おそろおそろ顔を近づけていたあたしに空がいきなり抱きついてきた。あまりの勢いに天地が逆になる。

いつ…いつたい何が？

わけもわからず見上げると暗闇の中、深い青の瞳でこちらを見つめる空がいる。

彼の顔がゆつくりとあたしに近づいてきた。

こっ…この展開は…うれし…あゝ、いやいや、そっじゃないだろ。

パニくる頭で考えを整理しようとしているあたしの目が、ふとある異変をとらえた。

こ、こいつ、左右の瞳の色が違う？

さては…！！！！！！

「よっ…夜？！」

『あれ？なぐんだ、オレのことも知ってるんだ』

夜はうれしそうにやりと笑った。空の顔なのに夜の性格が出たとたん、その笑みは魔性のものへと変わっている。

「しっ…知ってるわよ。それより、なんであんたが出てくんのよ？らんがこの場面、見たら怒るわよ」

『ああ。そうだね。でも、あいつは今、別部屋だし。めずらしく、この部屋に女がいるからさ、たまにはいいかなって、ね？』

夜はしれつとした口調で答える。

「たまにはって…。もう、いいから、どきなさいよ！」

『あれ？さっきはそっちから寄ってきたようだったけど？』

「そっ…それは」

しどろもどろになるあたしに夜は意地悪そうな笑みを見せる。

『それは？…は、はゝん。さては空がお目当てか』

「うっ…うるさいっ。早く寝なさいよ。空の身体、勝手に使っていないわよ」

『そんなこと言わずにさ。ね』

「ね？じゃないっ！！早く寝ろっつってんでしょー！！！！」

『ぐわっ！！！！！』

しつこい夜にあたしはおもわず夜の急所を蹴り上げた。

ふっ、ふん。じ、自業自得よ

あたしは悪くないんだから…

そう言い訳をしようとして、なにか叫び声が妙なことに気がついた。
なっ…なんかいやゝな予感がするんですけど・・・

あたしがけりあげた一点を両手で押さえてうずくまる夜(?)の顔を恐る恐るのぞきこんだあたしは、はっと息をのむ。
痛みに涙を溜めた両の瞳は青一色だったのだ。

【質問6】貴方がこの世界で必ずやりたい事は？（後書き）

原作を知らない方のためにフォローすると、夜というのは空の中にいるもう一つの人格で、かなり天然の空と違い魔性っぽい性格なのです。ああ…にしても蹴られたのは空なんだよね（滝汗）すまん、空、ゆるせ。

【質問7】貴方は元の世界に戻れる事になりました。 どうしますか？

『いつてえゝ。 あにすんだよゝ』

そうつぶやいた声はもう夜のもではなく、空本人のものだった。
青白い月光の下でもはっきりわかるほど空の目には大粒の涙が溜ま
っている。

なっ、なんで！？蹴り上げた時は確かに夜だったハズ…。

あたしが頭の中に『くえすちゅんまーく』を浮かべていると頭の中
に空のものにしては低すぎる子 さんの声が聞こえてきた。

（おばかな子猫ちゃん 僕はそんなにマヌケではないのだよ）

その言葉であたしは気がついた。

夜はすんでのところで空の奥底に消えていったのだった。

ひっ。 ひえええええゝゝ。

夜めゝ！！ずるいゾゝゝ！！！！

と怒ってみてもしょうがない。

案の定、空はめずらしくこわゝい顔でにらんでる。

こっ、ここわ退散だわ！そうよ、てっ、撤収よ！

ちよっと、レルム！敬介！命綱よ！早く命綱を引きなさ…

と自分の腰にまかれているロープをひっぱると切れはしがぴょこん
と目の前に落ちてきた。

切れてる〜〜〜!!!!!!

命綱は大事です。特にこのばわいは…。敬介め。まだ脇役の件、根にもってるな（怒）

はっ。

大きな声で叫んだところで気がついた。
きよるきよると周りを見渡してみる。

暗闇の中には普段着が入っているタンスと黒い革張りのイスが並んでいる。目の前にはTVやAV機器の乗った戸棚があり、その隣にしつらえられた鏡に寝汗でべったり前髪をおでこに張り付かせた自分の姿が映っていた。

なっ…なんだ、ゆめかあ〜〜。

と、いうわけでぶじ（？）帰還することが出来ましたとさ。めでたし、めでたし。（ホントか？）

【質問7】貴方は元の世界に戻れる事になりました。 どうしますか？（後書き

あとがき：

いやゝ、二次創作というかそれ以前にBLって難しいですね。 みやびは久々にドタバタが書いて大満足ですが、いかがだったでしょう。 次にトリップするのはあなたかも。 命綱は忘れずにゝ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1182e/>

好きしょ！ワールド妄想トリップ

2010年10月22日00時01分発行